創立120周年に向けて教育目標を再定義

「5C（カラット）」のスキルを身につけ機に応じて活動できる女性に

5つの非認知型智力を掲げ、状況の変化に対応できる力を育成

「清く 直（なお）く 明るく」を校訓に、1909年の創立以来、建学の精神である「機に応じて活動できる女性の育成」を実践してきた中村中学校・高等学校。伝統を大切にしながらも、これからの時代に求められるスキルを見据え、新たに「5Cを持ち合わせた女性の育成」をスクールミッションに策定した。その具体的な内容について、教頭の江藤健先生に伺った。

ダイヤモンドのように光り輝く次世代に必要な力を伸ばす

中村中学校・高等学校は、５年後に迎える創立120周年の節目に向け、これまで大切に受け継がれてきた教育目標を改めて再定義し、「５C（カラット）を持ち合わせた女性の育成」を新しいスクールミッション（育てたい生徒像）として策定した。

「５C」が表わすのは、対話を通じて合意形成ができる「Communication」、相手の立場に立ってものごとを考える「Care」、積極的にものごとに関わる「Commitment」、あきらめずに挑戦する「Challenge」、ものごとの意義を見出す「Curiosity」の５つのスキルだ。これらは、「建学の精神にある『機に応じて活動できる女性』をめざすための具体的な指針として、これまで実践してきた教育を時代に即してブラッシュアップしたものです。ダイヤモンドのように光り輝くスキルであることから、宝石の質量を表わす単位caratに合わせて命名しました」と教頭の江藤健先生は説明する。

「これらは新たに導入した概念ではなく、すでに生徒のアイデンティティーとして浸透しているもの」として、江藤先生は次のようなエピソードを紹介した。「本校には『中村AMBASSADOR』という学校説明会で運営や校内案内等を担当する生徒たちがいます。毎年、立候補で募り、2023年度には80名を超える生徒が活躍しました。『小学生の時に案内してくれたお姉さん達みたいになりたい』『大好きな学校のために何か役に立ちたい』と思いはそれぞれですが、その姿には凜々しさを感じます。もちろん、最初から人前で話すことが上手だった訳ではなく、場数を踏む中で成長しています。こうやって５Cを自ら磨いていく生徒たちも多くいます」

教頭
江藤 健先生

認知型学力と非認知型智力の両輪でバランスの取れた教育を実践

この「５C」を支える土台として、日ごろから重視しているのが、高いEQ（心の知能指数）の養成と、主要５教科をバランスよく学ぶ「認知型学力」、そして、「非認知型智力」の伸長だ。同校では非認知型智力として、「地球規模で考え、足元から行動するチカラ」「人と上手な関係を構築するチカラ」「思考判断し、文字化するチカラ」「考えて行動するチカラ」「自らサイクルを回すチカラ」の５つを掲げ、他者理解や自己理解を促すさまざまなグループワーク、自分の考えを相手に伝えるためのプレゼンテーション、チームビルディングを目的とした研修合宿等を通して、それらの獲得をめざしている。

一昨年、卒業生の一人が学校推薦型選抜で東京大学（文科Ⅲ類）に合格したのも、認知型学力と非認知型智力のバランスの取れた教育のたまものといえるだろう。加えて同校では、総合型選抜や学校推薦型選抜を希望する生徒に対し、エントリーシートや小論文の添削などを教員がマンツーマンで指導する「キャリアサポーター制度」を設けている。江藤先生は、「一人ひとりの希望進路実現も、『機に応じて活動できる女性の育成』における大切なピースひとつ」と語ったうえで、次のように締めくくった。「正解のない問いに満ちた現代においては、個人やチームで、最適解をいかに導き出せるかが社会課題です。それに対し本校では、他者との協働やアウトプットの訓練を通して、社会の要請に対応できるスキルを身につけます。今後も従来の教育を絶えずアップデートしながら、有為な人材育成に力を入れていきます」